



目次

例会&運営委員会の報告	P.1
日々のなかから、、	P.2
創立55年の歩み	P.3
事務局から今後の予定	P.4

今年も残すところあとわずか、冷え込む日も多くなってきました。疲れも溜まりやすい時期でもありますので、皆様、ご自愛くださいませ。

例会&運営委員会の報告

今回は、八王子にて障害者運動の草分け的存在である八王子市身体障害者福祉協会の矢田氏・大竹氏にご参加いただいた事によって、戦時中の出来事など、とても興味深い話を聞く事が出来ました。

織物産業が盛んだった八王子らしく、縫製や染物関連に従事されていた障害者の方が多かった事や、空襲で避難された時の体験談など、なかなか聞けない内容に参加者共々、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

結果、参加者だけの共有というのは勿体無いという話になり、矢田氏に原稿を依頼する形となりました。



文責：川出



八障連通信

NO.270

TEL 080-3451-8400



《前回からの続き》

説的には、どんな子どもも障害者になり得る状況とも言えますが、このことは障害や個性を認め合い、共に生きることには繋がらず、魔女狩り的な「障害」探しが行われ、より重度な障害児に至っては、完全に埒外に放り出されてしまうことにしかならないでしょう。

親たちは、「障害」のレッテルに戸惑い、我が子が障害者にならないように、なってしまってもなるべく障害を軽くするように願い、特別支援教育にすがることとなるでしょう。

一昔前の統合教育と今日のインクルージョンは同じことを意味しているのか。インクルーシブ教育とは単に地域の通常学校に通うことなのか。そういう理解も、特に日本では少なくないようです。

しかし、排除しないということは、通常学級での学習しか認めないということでもない。聴覚障害の子どものための聾学校や、自閉症児のための落ち着いた環境、重度・重複障害児のための独自の施設・設備等をすべて否定しまつては、逆に「人間の多様性の尊重」と反することになってしまいうでしょう。

ユネスコの定義などを参考にすれば、統合教育とは障害児を対象に一般教育の中で特別な教育を施すことであるのに対し、インクルーシブ教育は学校から排除されうる子どもに焦点を当てつつ、多様なニーズを持つすべての子どもを対象にしています。

前者は通常教育について行ける発達や認識のレベルで対応を分類し、結果的に障害児をふるいにかけて通常教育への同化を強要し、いつの間にか固有なニーズやアイデンティティを軽視・無視する傾向を生んでしまいがちになるのに対し、後者は、特定の個人・集団を排除せず学習活動への参加を平等に保障することをめざす、学校教育全体の改革のプロセスとされています。

「差別を受けることなく、共に生活し、共に学ぶ教育」

つまり分離教育に対する単純な統合(インテグレーション)ではなく、場所的には極力統合しつつ、特別な教育的ニーズ(これは障害児に対するものだけではなく、文化的・民族的マイノリティ、経済的なハンディキャップ等も含みます)に対して、普通学校への包摂・包容(インクルージョン)を行うものだ、とされています。

子ども達の精神的及び身体的な能力を最大限度まで発達させる教育の質を求めており、個別に必要な教育を施すことで、障害のある子どもとない子どもとが可能な限り同じ場で教育を受けられるようにすることを求めているのです。

《次回に続きます》

お知らせ

会費の納金を
お願いします！



今年度も早めのご入金の
ご協力とご理解をお願い致します。



八王子市身体障害者福祉協会

創立55年の歩み

会長 矢田 智康

戦後まもない昭和23年、三重苦の障害を持つ、ヘレンケラー女史の来日は障害者にとって驚きであり大きな光でした。初めての講演時、通訳の手の掌の笑顔で手文字を書き、通訳する姿をテレビで拝見し、はじめは三重苦と思えず、感動した事を鮮明に記憶しています。これを機に国は、障害者に対して福祉の手を差し伸べ昭和25年4月身体障害者福祉法が公布されました。障害者に自立と社会参加を勧め障害者の福祉増進が図られ、全国に障害者団体が次々と結成されました。

八王子においても、昭和32年8月、肢体、視覚、聴覚の障害及び傷痍軍人の方々を中心に、八王子市身体障害者福祉協会が発足にあたりました。行政関連部署、又、諸先輩の温かいご指導を頂き、福祉を守る協会設立にあたり大変なご苦勞があったと事と思います。

昭和32年10月、織物貿易会館にて秩父宮妃殿下をお迎えして発会式が盛大に執り行われ関係者各位、約300人が参列し記念すべき発会式を祝いました。昭和45年には、障害者政策の基本理念を定めた、心身障害者基本法が施行され、この年、八王子市身体障害者福祉協会も、肢体、視覚、聴覚、3部門が発展的に、独立的の道を選び、私どもは、八王子肢体障害者福祉協会(八肢協)として引継、昭和62年10月、創立30周年記念大会を小杉会館で開催いたしました。昭和から平成に変わると協会は、また、障害者同士の意見違いで分裂しました。平成9年10月創立40周年記念大会を熱海簡保センターで致しました。

平成12年4月、3団体分裂以来、30年の時期、障害者支援施策も次第に充実してまいり、障害者ノーマライゼーション7ヵ年プラン、障害者バリアフリーハードビル法等施行され、節目に創立当時の八王子市身体障害者福祉協会の名称に戻りました。その間、八王子障害者団体連絡協議会に入会しました。また、我が国の障害者施策は大きく変革し、平成18年12月「障害者権利条約」が整備されました。平成19年11月、創立50周年記念大会を八日町エルシーにて盛大にとり行われました。

平成21年12月、政府に「障がい者制度改革推進会議」が設置され、障害者総合福祉法、障害者虐待防止法の制定が行われ「障害者差別禁止法」(仮称)が検討されています。

今後ともますます変革をすすめ、障害者にとって暮らし良い社会をすすめる政治家に期待します。

事務局から今後の予定

◆ 市議との懇談会について

現在、市議との懇談会について日程調整を始めています。
予定では2月15日(金)18時～を候補日として進めておりますので、来年の予定に入れておいて頂ければと思います。

内容は防災関連を含め、検討中ですので提案事項などありましたら、例会 & 運営委員会にご参加して頂き、一緒に考えてゆきたいと思っております。

◆ ボウリング大会について

今年度のボウリング大会は
2月2日(土)第一候補、2月9日(土)第二候補で日程調整をしております。
毎年、当日の進行などの手伝いをして頂ける職員さんが少なくなっている現状から、お手伝いして頂ける方を募集しています。連絡先、事務局までお電話頂ければと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。
お電話、お待ちしております。

今後の予定

12月

運営委員会	12月 20日(木)18時～19時	クリエイトホール	第1学習室
例会	12月 20日(木)19時～20時	クリエイトホール	第1学習室

1月

運営委員会	1月 17日(木)18時～19時	クリエイトホール	第1学習室
例会	1月 17日(木)19時～20時	クリエイトホール	第1学習室